

近畿地方の万葉集と風景画シリーズ（第二十三回）

ひのくまがわ

「檜隈川」

・檜隈川（現在は「檜前川」ひのくまかわと呼ばれる。）は明日香村

の南方、奈良県高市郡にある高取山（標高584m）

山中に発し麓にある高取町から隣接する明日香村

大字檜前ひのくまの地を流れ、ほぼ近鉄線に沿って北流し奈

良県中央部にある檜原市曾我町で曾我川に注ぐ小

川である。万葉集には檜隈川に関して詠われた次の

歌がある。

ひのくま

① さ檜隈 檜隈川の 瀬を早み

ことよ

君が手取らば 言寄せむかも

作者・未詳（巻七―1109）

（解説）檜隈の野を流れる檜隈川の川瀬が早いので、

あなたの手を取って渡ったらみんなに噂される

でしょうか

② さ檜隈 檜隈川に 馬とどめ

馬に水飼^かへ われ外^{よそ}に見む

作者・未詳（巻十二 — 3097）

（解説）檜隈の、檜隈川のほとりに馬をとめ、馬に水を与えてください。その間に私は他所ながらあなたのお姿を見させていただきます。

・万葉に詠まれている当時の「檜隈」の地は現在の明日香村檜前^{ひのくま}に名を残しているが実際は北は明日香村の野口・平田から南は檜前に至る近鉄吉野線よりも東側一帯のかなり広い地が檜隈と呼ばれていたとの説がある。

・このことはこの地にある天皇陵、即ち欽明天皇陵^{きんめい}が「檜隈坂合陵^{さかあい}」（明日香村平田）・天武・持統天皇合葬陵が「檜隈大内陵^{おおち}」（明日香村野口）が檜隈の土地名が付されて呼ばれているところからという。

（参考文献）・扇野聖史著「万葉の道」、日本古典文学大系、

・明日香村史 等

(写生地)

明日香村檜前ひのくまの野を流れる檜前川と遠くに高取の

山々を描く。(池田杏花)

